## 谷間のしじゅうから 小川未明

する今日、 谷 川 の岸にあった同じ石の上に降りて、なつかしそうに、あたりの景色をなきょう、たにがわ、きし おな いし うえ お おのころ、一度この谷間を訪れたことのあるしじゅうからは、やがて 涼 風 のたとうとはる

がめていたのであります。

ました。しじゅうからは、葉のしげったかしの木を見つけて、巣をかけようかと、友だちました。しじゅうからは、ょ と枝の間を飛びまわっていました。 日 光 の射しぐあいなどをしらべなければならなかっ\_ ぇだぁいだ と きは、やっと雪の消えたばかりで、見るものがすべて希望に燃え立っていきいきとしていきは、やっと雪の消えたばかりで、みょうがもできます。また。 小鳥たちにとって、この二、三か月の間は、かなり長い間のことでありました。そのとことり

すると、かしの木は、不平らしい顔つきをして、

たからです。

「 承 諾 なしに、私の枝へ巣をかけてはいけません。」といいました。 しょうだく 無理のない言い分でありました。しじゅうからは、つい断るのを忘れてしまっむり

たのです。なぜなら、巣をかけることは鳥たちにとって、あたりまえのことで、 とと思っていなかったからでした。 わるいこ

「ごめんください。どうぞ私に、小さな枝を貸してくださいませんか?」と、頼みました。

てやったら、いたずら者が寄りつかなくていいかと思っているのです。」と、ごうまんな いい方をして、かしの木は、答えました。 せると葉を汚して、いやになるから許さなかったのですよ。いっそすずめばちにでも貸しょ。ょご 昨日も、美しいこまどりがきて、いろいろ頼んだのですけれど、どうも鳥に巣をかけさまのう。 うつく

「あの、すごい剣を持っているすずめばちにですか?」

「そうですよ。」

を草を分けながら、おじいさんが、子供をつれて、まきを背負って、ふもとの方へ下って、くさ、ゎ いくところでした。 ちょうど、このとき、人の声がしたので、しじゅうからは、驚いて下を見ると、細い道ちょうど、このとき、ひと こえ

りが、なんで頼んでも、こんなところへ巣をかけよう。」 「ああ、ここに、こんな人の通り道があったのか?」あの

ひと とお みち 臆 病な、注意深いこまど

おくびょう ちゅういぶか

りましたので、自分もここへ巣をかけるのは考え物だと思って、他の木へと移っていきまりましたので、 じぶん す すっっ ししじゅうからは、この威張っているかしの木が、いいかげんなことをいっていると知し

彼の止まった、とちのきは、みごとな白い花を開いたばかりでした。かれ、と

しじゅうからさん、私の花と、あすこに咲いているうつぎの花と、どちらがきれいでしょからからさん、私の花と、あすこに咲いているうつぎの花と、どちらがきれいでし

よう?」と、とちのきは、しじゅうからに向かって、ききました。

「さあ、 あなたは、白い花ですし、あちらは紅い色ですね。どちらもみごとではありませ

んか?」

しじゅうからは、なぜとちのきが、こんなつまらない問いを出したのかと疑わずにはい

られなかったのです。

私は、悲しくてなりませんでした。」と、とちのきは、さも無念そうに、大きな葉をはたゎヒレ゚ ゥな 「いえ、昨日も旅の珍しい鳥が、ここへやってきましたが、私へは止まらなかったので、きのう。たびぬずら、とり

はたとふるわせていました。

があるのかと痛ましく感じました。 をなぐさめたのでありました。彼はかかる険しい谷間の片すみにも、こうした悩みと争い の鳥は、あの低い木を憐れと思って止まったのですよ。」と、しじゅうからは、とちのき」とり 「とちのきさん、あなたは、こんなに太いし、そして、高いではありませんか。きっと旅ホピ

若い、すらりとしたしらかばは、ちょうど 更善衣 をしているところでありました。 そのつぎに、しじゅうからは、しらかばの枝へ移ったのです。

いました。

が、すっかりできあがった時分に、もう一度ここへきて、私を見てくださいまし。」といが、すっかりできあがった時分に、もう一度ここへきて、私を見っくださいまし。」とい 「そんなに私を見てはいけません。どうしてって、恥ずかしいのですもの。私のお 化 粧

ろは、いちばん私たちの 生 活 に忙しいときだからです。そのかわり、このつぎ、こちらのは、いちばん私たり せいかっ いそが といいました。しじゅうからは、しらかばのうぬぼれが、むしろ、いじらしく思われまし くてもおこってはいけません。それは、けっしてあなたを忘れたのでなく、たぶんそのこ へきたときに、 「しらかばさん、その時分、私たちは、どこにいるか知れませんが、たとえ、やってこな」しいい。 あなたがどんなに美しくなっていられるか、見るのが楽しみであります。」

た。そして、もし 大 雨 が降って、 出 水 をしたら、彼らは、根こそぎに、さらわれて、 しゅっすい からんだむべの木とを見上げたのであります。 急 流 が、二本の木の根を洗っていましからんだむべの木とを見上げたのであります。 急 流 が、二本の木の根を洗っていまし しまう 運 命 にありました。しかし、二本の木はしっかりと、たがいに根を張って助け合しまう あんめい 「一つ、つぼみがつきましたね。」と、しじゅうからはやさしい 調 子 で、むべに向かっ 最後に、彼は、この石の上に下りて、水を飲み、岸に立っているかえでの木と、それにさいご かれ いし うえ ぉ みず の きし た しじゅうからは、このようすを見ると、深く 同善情 をしたのであります。

て声をかけました。

これを聞いて、かえでの木は、我がことのように喜んで、

「今年はじめて咲くのですよ。きっと、ふじの花よりも美しいし、また、ばらの花よりもことし

美しいと思っています。」といいました。

「たしかにきれいです。そして、大きないい実を結んでください。」と、 しじゅうからは、

答えました。

今度は、むべが、友だちについて、語りました。こんど

よくなって、このあたりで一番の木になると、あなたは、お思いになりませんか。」とい 「かえでさんのこの若芽は、すてきではありませんか。これが伸びたら、きっと枝ぶりがった。

いました。

あげますよ。」と、しじゅうからが、かえでの木にいいました。 「たしかに、りっぱな枝ぶりになります。もし、わるい虫がついていたら、私が、取って、たしかし、りっぱな枝ぶりになります。もし、わるい虫がついていたら、私だし、と

んでしまいました。」と、かえでの木は、答えたが、その言葉には、元気がみちみちてい。 ました。しかもここはいちばん吹雪のはげしいところでした。お蔭で虫の卵は、みんな死しょぶき 「よくごしんせつにいってくださいました。だが私たちは、冬の間雪と風にさらされていいまくごしんせつにいってくださいました。だが私たちは、冬の雨い煙き かぜ

ました。むべはまたしなやかなつるを延ばして、あたかも 大 空の 太 陽 をつかもうとす

るように、きらきらと輝いていました。

この日は、遠くでやまばとが鳴き、近くの村では、かっこうとうぐいすが鳴いていましょ。とお

た。

をして夏はいきかけていました。 とを思い出して、飛んできたのでした。すでに 谷 川 の水の飛沫のかかるこずえは 紅 葉ぉも だ そのときから、 三月の日数がたったのであります。 しじゅうからは、むべとかえでのこ

ているごとくでありました。あたりの谷にこだまして、夕暮れを告げるひぐらしの声が、たに、ゆうぐ・っ とちのきも、 しらかばの木も、 黙 々 として、やがてやってくる 凋 落もくもく の季節を考え

しきりにしています。

じゅうからは、むべに声をかけました。むべの木は、頭を振って、 「あれから、きれいな花が咲きましたか。そして、りっぱな実がなりましたか?」と、し

「花は、あの後、じきに、 情 無 しの風にもぎとられてしまいました。」と、答えました。はな のち

そして、むべのつるが、しっかりと枯れた小枝を握っているのを見て、しじゅうからはか、こえだ、にぎ

「それは、なんですか?」と、たずねたのでした。

わないうちに、急いで捕らえたのでした。いや、あのかわいらしい小枝が、私の手にすがったい。 ったのでした。どうして、これが放せましょう?」 できてぷつりと切ってしまいました。私は、 <sup>ゎたし</sup> 「これは、あのときのみごとなかえでの若芽です。ある日、大きな、かみきりむしが飛ん」 かわいそうな小枝が、下の流れに落ちてしま

と太く、強くなるようにといって、どこへとなく飛んでいきました。 なびいている姿をながめながら、どうか、このつぎの春までに、むべも、 しまれたのでした。彼は、 谷 風 に、むべのつるが、空しく枯れ枝を握ったまま 夕 空 にしまれたのでした。かれ、 たにかぜ しじゅうからは、みんなが希望に燃えたっていた、過ぎ去った春がいまさらのごとく惜い。 すしき しょ かえでも、 もっ

## 青空文庫情報

底本:「定本小川未明童話全集 12」講談社

1977(昭和52)年10月10日第1刷発行

1982(昭和57)年9月10日第5刷発行

1938(昭和13)年12月

底本の親本:「日本の子供」文昭社

初出:「赤い鳥 鈴木三重吉追悼号」

※初出時の表題は ※表題は底本では、 「谷間の四十雀」です。 「谷間 《たにま》のしじゅうから」となっています。

入力:特定非営利活動法人はるかぜ

2017年2月2日作成校正:酒井裕二

青空文庫作成ファイル:

ました。入力、 校正、 制作にあたったのは、 ボランティアの皆さんです。

このファイルは、インターネットの図書館、

青空文庫(http://www.aozora.gr.jp/)で作られ

## 谷間のしじゅうから 小川未明

2020年 7月18日 初版

## 奥付

発行 青空文庫

URL http://www.aozora.gr.jp/

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL http://aozora.xisang.top/

BiliBili https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/ ※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。 http://tokimi.sylphid.jp/